

揭示文書

金沢大学附属病院内科（循環器内科 2、内分泌・代謝内科 2、リウマチ・膠原病内科 2、消化器内科 2）で 24 時間自由行動下血圧測定（ABPM）の検査を受けた患者さんへ

現在、金沢大学附属病院で 2010 年 4 月以降に 24 時間自由行動下血圧測定（ABPM）の検査が行われた患者さんを対象に、臨床研究を行っております。

ABPM を含む臨床情報を用いた、
内分泌性高血圧と血圧変動異常に関する観察研究
課題名『内分泌性高血圧と血圧変動異常 -ABPM を用いた解析-』

当院内科にて ABPM の検査を受けた方だけでも過去 5 年で 200 人以上の方が対象となるため、ウェブサイト上でお知らせしています。

ABPM による検査結果のほか、血液検査・降圧薬の内服薬剤状況などの臨床情報を用いて研究を行いますので、新たに患者さんへの負担は生じません。また、費用の負担も生じません。

過去に ABPM の検査を受けられた方は、この説明文書を読まれた上で、参加の中止を申し出ることができます。もし参加を中止しても、これからの治療に差し支えることはありません。

この研究に参加されるかどうかを決めていただくためには、あなたに研究の内容についてできるだけ多く知っていただくことが必要です。説明の中で分かりにくい言葉や疑問、質問がありましたらどんなことでも遠慮なくお尋ねください。

金沢大学附属病院 第 1 版
作成日 平成 27 年 7 月 24 日

研究の目的

人の血圧には日内リズムが存在すると言われていています。健常な方であれば昼間に血圧は高くなり、夜間には低下するという周期が認められることが分かっています。しかし、様々な疾患により、この血圧の日内リズムが障害され、血圧の日内リズムが消失したり逆転したりすることがあります。二次性高血圧（何らかの病気が原因で引き起こされる高血圧）の患者さんに多くこの現象が見られます。また、このような血圧の日内リズムの障害は心臓や腎臓といった様々な臓器の障害を引き起こすと言われていています。しかし、どのような病態が原因で血圧の日内リズムが障害されるのかは十分に明らかにされていません。

今回の研究の目的は、二次性高血圧の患者さん、特に二次性高血圧の代表疾患である内分泌性高血圧（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫）の患者さんにおける24時間自由行動下血圧測定（ABPM）の検査結果を評価し、本態性高血圧（原因が特定されない高血圧）の患者さんの検査結果と比較することで、血圧の日内リズムの障害が起こる機序を解明する一助にしたいと考えています。

研究の方法、対象

2010年4月から2015年6月までに、金沢大学附属病院循環器内科2、内分泌・代謝内科2、リウマチ・膠原病内科2、消化器内科2にてABPMを施行された患者さんを対象に、ABPMから得られた日中・夜間・24時間平均血圧、夜間降圧率と本研究に必要な血液・尿検査等の検査結果や合併症のデータを利用させていただきます。具体的には、患者さんを匿名化（患者さんのお名前や住所など特定できる個人情報を削除すること）した後、必要なデータをまとめ、解析を行います。また、本研究で使用したデータは、本研究終了後に破棄致します。集計されたデータは、学会発表や学術雑誌及びデータベース上で公に発表される事があります。

研究期間

金沢大学医学倫理審査委員会の承認日から2017年3月31日までです。

問い合わせ、苦情等の連絡先：

あなたが、病気のことや今回の観察研究に関して、疑問に思うことや困ったことが生じる場合は、下記にご連絡下さい

金沢大学附属病院 内分泌・代謝内科（臓器機能制御学）

研究責任医師：武田 仁勇

職名：特任教授

相談窓口：

内分泌・代謝内科（臓器機能制御学）内分泌糖尿病研究室

電話番号：076—265—2252